

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470801208
法人名	社会福祉法人 横浜長寿会
事業所名	グループホーム めくもりの家・金沢文庫
訪問調査日	平成20年9月25日
評価確定日	平成20年11月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1470801208号
法人名	社会福祉法人 横浜長寿会
事業所名	グループホーム めくもりの家・金沢文庫
所在地	横浜市金沢区寺前2-23-35 (電話) 045-790-3910

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 20日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	10人	常勤 3人	非常勤 7人	常勤換算 5.6人

### (2) 建物概要

建物構造	(鉄骨)造り	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	350,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要 (8月20日 現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81歳	最低	73歳	最高	85歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金沢文庫病院 健康あんしんクリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“ゆっくり・ゆったり・私らしく”という理念に基づいて運営され、静かな雰囲気の中に家庭的なぬもりが感じられるホームです。サービス提供にあたっては利用者一人ひとりの生活歴や考え方、日常の言動などに注意がはられ、それぞれの思いを大切にしたいケアが心がけられています。また、利用者が持てる力をできるだけ発揮できるよう支えるケアが実践されています。  
開所に合わせて新築された建物は明るく清潔で、リビングに畳敷きのくつろぎスペースを設けるといった工夫も凝らされています。ホームのすぐ近くには名勝として知られる称名寺があり、桜や彼岸花など季節の花が咲く庭園の散歩が楽しめるなど、立地にも恵まれています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、計画的な研修の受講 同業者との活発な交流 介護計画の定期的な見直しと記録の作成 重度化・終末期の対応方針の決定 定期的な避難訓練の実施の5点が取り組みを期待したい内容になっています。はおおむね改善されていますが、についてはまだ十分とは言えない部分も見受けられ、今後のさらなる取り組みが期待されます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義・目的を伝えた上で全職員にそれぞれ自己評価に取り組んでもらい、結果を取りまとめています。今回の評価結果については職員全員で話し合い、サービスの質の向上に活かしていく意向です。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>横浜市の指示が出るまで対応待ちになっていたこともあり、運営推進会議はまだ開かれていませんが、今年度中に第1回目を開催し、サービスの質の向上に役立てていく意向です。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時の声かけや手紙により、意見、苦情などがあっても伝えてくれるよう家族に働きかけています。また、重要事項説明書にホームの苦情受付窓口および行政その他の苦情受付機関を明示しています。寄せられた意見等は職員会議などで話し合っサービスに反映させるようにしています。家族の要望によって歯科医の訪問受診が実現した例などがあります。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の高齢者が集まって喫茶やゲームを楽しむ「ふれあいサロン」などにも参加しています。また、運動会やお祭りといった地域行事に積極的に出かけており、近隣には「ひな祭り」に招待してくれる保育園もあります。地域で暮らすスタッフが多くの日常生活における連携に役立っています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所に際してどのようなグループホームにしていかたいかを職員全員で考えて意見を出し合い、利用者に自分らしく安心した生活を送ってもらうために「ゆっくり・ゆったり・私らしく」という理念を作り上げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一緒に理念を作り上げたホーム立ち上げ時の職員が多いこともあって、共有化や内容の理解は十分できています。また、職員会議で理念の確認を行っており、日々のサービスに反映されているかどうかの見直しにも取り組む予定です。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の高齢者が集まって喫茶やゲームを楽しむ「ふれあいサロン」などにも参加しています。また、運動会やお祭りといった地域行事に積極的に出かけており、近隣には「ひな祭り」に招待してくれる保育園もあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義・目的を伝えた上で全職員にそれぞれ自己評価に取り組んでもらい、結果を取りまとめしています。今回の評価結果については職員全員で話し合い、サービスの質の向上に活かしていく意向です。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横浜市の指示が出るまで対応待ちとなっていたこともあってまだ運営推進会議は開かれていませんが、今年度中に第1回目を開催し、サービスの質の向上に役立てていく意向です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の手続きのために職員が市の窓口を訪れることはありますが、担当者にホームの考え方や実態を知ってもらい、課題解決に向けて協働する関係を築くまでには至っていません。		現場や利用者の課題解決のためには市の理解や支援が必要なことが多いので、運営推進会議への取り組みなどをきっかけにつながりをより密にし、連携を深めていくことが期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームを訪れた際には利用者の暮らしぶりや健康状態などを伝え、毎月送付する手紙でホームの近況や金銭管理等の報告を行っています。また、利用者の体調に変化があった場合にはその都度電話で連絡をしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時の声かけや手紙により、意見、苦情などがあつたら何でも伝えてくれるよう家族に働きかけています。また、重要事項説明書にホームの苦情受付窓口および行政その他の苦情受付機関を明示しています。寄せられた意見、要望等は職員会議などで話し合い、サービスに反映させるようにしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営主体である法人の就業規則には常勤職員の異動が定められていますが、現状では実施されていません。また、管理者はスタッフに長期間勤務してもらえるよう働きやすい職場環境作りに努めており、利用者にとって馴染みの職員が継続的にケアにあたる体制ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は運営主体である法人の研修を計画に基づいて受講し、ホームで勉強会を開いて職員の育成に役立てています。また、外部研修の開催情報が入ると人選を行い、適切な職員に参加の声かけをしています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市のグループホーム連絡会に加入して情報交換などを行っていますが、地域の同業者と実践的な交流をするまでには至っていません。		サービスの質の向上や緊急時のスムーズな連携のために地域の同業者と交流を図り、地域密着型ホームとしてのネットワーク作りに努められることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族が納得して利用できるよう、必要ならば何度でも見学してもらい、ホームの雰囲気をつかんでもらっています。その後、職員が自宅を訪問し、話し合いやアセスメントを行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添って話を傾聴し、思いの理解と共感に努めています。利用者から料理のコツなど生活の知恵を授けられることも多く、職員がいたわってもらったり励ましてもらうこともあって、互いに支えあう関係ができています。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が希望や要望を表しやすい環境作りや対応が心掛けられており、職員は毎日の生活を注意深く見守りながら利用者の意向の把握に努めています。意思の疎通が難しい場合には、家族からの情報収集や複数の職員による意見交換をもとに、本人本位の検討を行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が日々その人らしい暮らしを送れるよう、利用者・家族の要望や職員の気づきを「個人記録」に記載しています。職員会議では「個人記録」「職員申し送りノート」「業務日誌」などを参考に関わる職員全員が意見を述べ合い、利用者一人ひとりに合った介護方針を決めて実践しています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が起きたり新たな課題が発生した場合は、早い時期に職員全員で検討し、臨機応変にケアの見直しを行っています。その内容は「職員会議録」に記載し、周知にも気を配っています。しかし、見直し内容を反映した新たな介護計画書を作成するまでには至っていません。		現状に即した介護計画の作成が望まれます。また、新たな要望や状態の変化がない安定した利用者についても、定期的に介護計画を見直し、書面で確認することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望による病院や美容院への送迎支援は日常的に実施しています。デイサービス、買い物、コンサート、ドライブ等に行きたいといった要望があった場合にも、出来る限り送迎などの支援に応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医を決めており、入所以前からの馴染みの医療機関をかかりつけ医とするケースがほとんどです。協力医療機関で受診する場合には利用者・家族に説明し、了解を得ています。緊急時にはかかりつけ医と連携し、速やかな対応をとるよう心がけています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化したり終末期を迎えた場合には、速やかに医療につなげる方針をとっています。最近、利用者の入院がきっかけとなって重度化に対する職員の意識が高まっており、“ホームとして出来ること・出来ないこと”を明確にして全員で共有したいと考えています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけないように一人ひとりにあった言葉かけを心掛けています。ファイル等個人情報の管理についても、カギのかかる引出しにしまうなど十分に注意をはらっています。また、新人職員の入職時には「個人情報取扱いに関する研修」を実施し、受講させています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はどのような時にも利用者のペースを尊重しています。また、利用者がその日何をして過ごしたいかの把握に努めており、訪問調査時にも“落語のカセットが聞きたい”“静かに居室で過ごしたい”などの希望を引き出したり、散歩の行き先を決めてもらうといった場面が見られました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには旬の食材が多く採り入れられ、食器や箸置きにも気配りが感じられます。職員は利用者と同じ食卓に着き、さりげない支援を行っています。食事に関する一連の作業には利用者も力を発揮しており、訪問調査時にも職員と一緒に和気あいあいと準備や片付けをする様子が確認できました。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしており、13時30分頃から4時間ほどの間なら希望の時間に入浴が可能です。入浴を好まない利用者には声掛けのタイミングを工夫し、促しています。その日の状態に合わせてシャワー浴や足浴も行っており、入浴の様子は「業務日誌」や「バイタルチェック表」に記録しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室のベランダにプランターを置いて花を育てたり、テレビ鑑賞や外気浴を楽しむなど、好きなことをしてリラックスする時間を大切にしています。利用者が隣家に回覧板を持って行くこともあります。職員は利用者一人ひとりが役割や楽しみを持って生活できるよう、見守りや支援を行っています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日以外は散歩に出かけています。ホームの周辺には利用者が好んで出かける緑多い名勝史跡と公園があり、安全で楽しめる外出支援が実践されています。利用者の希望を受けて近隣の商店に買い物に行ったり、職員の運転する車で花見など季節のドライブや行事見学に出かけることもあります。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は二重扉で、日中は外側の引き戸、内側の自動ドアともに施錠されていません。自動ドアにはチャイムが設置され、音を聞いた職員はその都度利用者の安全を確認しています。外に出たそうな様子の利用者には職員が同行して外出し、閉そく感を与えないよう対応しています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路についてはホーム開設時に全職員で確認しています。災害時に誰からどのような方法で避難させるかという誘導確認も2階の障害者施設と合同で行っており、ホームとしての対策を今年度中にまとめる予定です。また、昼間および夜間の災害を想定した避難訓練も近々実施したい考えです。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別の食事量を「バイタルチェック表」に記録し、食が進まない利用者には主食の種類を変更したり味付けを好みに応じて加減するなどの配慮をしています。冷蔵庫に冷たい麦茶が用意されているので、利用者はいつでも自由に水分摂取ができるほか、自室でコーヒーやお茶などを飲むことも可能です。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは掃除や換気が行き届き、居心地の良い空間になっています。玄関には長椅子が置かれ、散歩の支度をしたり、帰着後にひと休みするのに役立っています。リビングの一角には利用者がくつろげるよう畳を敷いてソファを置いたスペースが設けられており、転倒事故などが起きないように家具の配置等にも細かな注意が払われています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者が使い慣れた家具、電気製品や装飾品などが持ち込まれ、その人らしく過ごせる空間に設けられています。また、職員は利用者のプライバシーを大切にしており、居室に入る際には必ず許可を得ています。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ぬくもりの家・金沢文庫
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	横浜市金沢区寺前2丁目23-35
記入者名 (管理者)	石沢 雅子
記入日	平成 20 年 8 月 22 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でどのようなグループホームにしていきたいかを職員皆で考え、意見を出し合い、自分らしく安心して生活を送っていただけるよう「ゆっくり、ゆったり、私らしく」と事業所独自の理念をつくりあげた。		3年目に入り、今一度自分たちの関わり方や入居者一人一人の生活を見つめなおし、理念を再確認していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立ち上げ時に職員皆で意見を出し合い、共有し合い、日々の関わりの中で理念の実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに理念を明記し配布している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩や買い物・外出等に出た時に気軽に挨拶や声をかけさせてもらったり、声をかけてもらっている。		近隣の小学校や保育園等、子供たちとの交流をする機会をもっていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の高齢者の集いに参加させていただいたり、運動会やお祭り等の地域の行事にも積極的に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みが出来ていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的を伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。		今回の自己評価・外部評価を機に改善に向けて具体的な検討や実践につなげる努力をしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ取り組みはされていない		運営推進会議を立ち上げ、サービスの質の向上に努めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の担当ケースワーカーとの情報の共有をはかり、課題・解決をはかっている。		区や地域包括支援センターとも連携が取れるような活動をしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が窓口として対応する為、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についての理解や、支援の体制が万全ではない。		研修への参加を通し、職員の理解を深めるようにし、支援へと結び付けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、関連法について学ぶ機会が設けられておらず、理解浸透や遵守に向けた取り組みは積極的にはできていない		研修への参加を通し、職員の理解を深めるようにし、支援へと結び付けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間をとって丁寧に説明を行っている。不明な点や疑問点等にも丁寧に説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の利用者の言葉や態度からその思いを察する努力、意見を言いやすい関係作りに努め、申し送りや会議等で話し合い、運営や日々のケアに活かしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族訪問時には随時日頃の様子を伝え、月1度お手紙で現在の報告をしている。また、体調変化時は随時電話で連絡をとっている。金銭管理については立替払いとし、個別の出納帳をつくり、月ごとに請求している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>手紙や訪問時には、随時問いかけを行い、なんでも言ってもらえるような関係作りを心がけている。意見・要望等は申し送りや会議等で話し合い、反映できるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人全体で役職者会議を設定し、各事業所の事業計画・事業運営状況の報告をし合い、共有化をはかっている。また、会議や仕事の合間に随時意見を聴くように心がけている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は通常のシフトには入っておらず、夜間や利用者の状態変化に応じた柔軟な動きが取れるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人の就業規則上は、常勤職員の人事異動が定められているが、実情は新規事業の立ち上げ当時に若干の異動があるのみである。また、非常勤職員については現地採用であり、本人の希望がなければ人事異動はない。また、働きやすい環境作りに努め、なじみの職員からの支援が継続して受けることができるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では基本的に階層別の研修を主としており、役職者については法人で研修を実施している。各事業所についてはそれぞれの事業所内で研修を実施。外部研修については、研修情報の案内により、随時研修に参加させている。		職員全体の質の向上の為、研修計画を立て取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人としては、地域の同業者との関係作りは非常に重要と位置づけており、各事業所で、それぞれの地域の研修会や会議等に参加させている。		グループホーム連絡会には加入しているが、同業者との活発な交流は出来ておらず、今後、交流を通じて、外部の意見や取り組みを学び、サービスの質の向上に活かしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で役職者会議、研修を実施し、内部での情報交換をはかっている。各事業所においては外部の研修・会議等に参加し、情報交換をはかり、これにより、問題・課題を内に溜め込めずに解決する試みを行っている。また、無理な勤務・シフトは作らず、十分な休養をとってもらい、ストレスをためないようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の役職者会議等で各事業所の事業実績や運営状況を報告し合い、評価・共有化をはかっている。また、勤務状況については法人事務局で管理し、状況把握に努めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が事前にご本人の自宅に伺い、ご本人と会い、生活の様子や思いを受け止め、他の職員にもご本人の状態・思いを受け入れられるような関係作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話をゆっくりと聴き、その思い等受け止め、自分たちがどう対応できるのか話し合い、安心してサービスを利用してもらえるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思い・状況等確認し、受け止め、ご本人・ご家族が安心を得られるよう必要なサービスにつなげていける対応をとっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、ご本人・ご家族に見学に来てもらい(必要ならば何度でも)、雰囲気等つかんでいただき、安心感を持ってサービスを利用していただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に相手の立場に立って考え、不安・喜び・楽しみを共感し、理解しながら共に支えあう関係作りに努めている。また、利用者から教えてもらうことも多く、教えてもらったことを大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを伝えると共に、家族の思いも受け止め、ご本人もご家族も安心してサービスを利用していただけるよう協力関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常にご本人・ご家族の思いを受け止め、日ごろのご様子は、こまめに報告・相談をしながらご本人・ご家族が気持ちよくいられる様に心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人・知人と気軽に気持ちよく行き来できるように、職員も声かけや働きかけをしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を注意深く見守り、職員が調整役となり、利用者同士が支えあえるよう、関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの終了した方には、その後の様子を聞いたり、介護方法の相談にのったりとし、必要時にフォローできるようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発する言葉や態度・表情からその思いを押し量り、耳を傾け、本人の暮らしへの希望にそえるようにしている。また、ご家族からの情報も大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族から聞き取るようにしているとともに、日々の会話やご家族・知人とのコミュニケーションを通して把握していくように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同士で情報を共有しながらお一人お一人の生活のリズムを把握し、出きることを少しずつ見つけながら、その人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、出来ること・気付いたこと、本人や家族の要望や思いを記録し、会議の中でも意見を出し合い、反映させるようにしている。		常に情報収集を怠らず、画一的な介護計画にならないようにしていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に伴いその時々で職員間で話し合い、対応しているが、介護計画の見直し、実践が出来ていない。		介護計画の見直しが出来ておらず、日々のケアを全員で行う為を実施していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしでの発見や言動・体調を個別に記録し、職員は常に目を通すようにし、情報を共有している。		記録の仕方を工夫し、より個別の情報が分かりやすく、ケアに活かせるよう見直しを行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況・要望に応じて、通院や理美容、外出等の支援に柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できていない		利用者が安心して生活をしていけるよう、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、介護保険外の生活支援に結びつくサービスを受けられるように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はできていない。		周辺情報や、支援に関する情報交換や協力関係を築けるようにしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での医療を継続してしてもらっている。基本的にはご家族の同行受診をお願いしているが、できない時は職員が同行している。また、緊急時にはそれぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、速やかに対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する治療・対処方法等、認知症医療に対する利用者個々の対応はできていない。		認知症の医療に熱心で、ご家族・職員の話をよく聞き、日常の利用者の姿を通して適切な指示や助言をしてくれるような医師を地域の中で探し、個別支援をしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師に健康状態や医療面での相談・援助を行ってもらっている。		訪問看護ステーションとも協力できるような体制を作り、日ごろの健康管理や医療的な支援を行えるようにしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関へ提供していき、入院後は回復状況等確認しながら速やかな退院支援へと結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとにご家族の気持ちやご本人の思いに注意を払い、本人にとってどうあったら一番良いのかを話し合いながら方針を決めていく。		重度化や終末期のあり方について職員間で話し合い、自分たちの出来ること、できないことを見極めながら方針を統一し、共有していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者により良く暮らしていただく為に、常に利用者の気持ちを大切にしながら、かかりつけ医の意見を聞きながら、ご家族と話し合いを重ねながら、準備をしていきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境や支援の内容、注意が必要な点等情報を提供していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>他の利用者や外来者にプライバシーを損ねない言葉かけや対応の徹底を会議や日常の場で確認している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何事も押し付けることはせず、その方の状態に合わせて、自ら決定してもらうよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、お一人お一人の状態に合わせて、気持ちを尊重しながら、散歩・買い物・余暇活動等柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的に着替えはご本人が行っており、職員は見守りや支援が必要な時にお手伝いさせていただいている。理美容もご本人の望む時に行き、ご本人の好みに合わせて行っている。また、希望者は職員がご本人の好みに合わせカットしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・盛り付け・セッティング・片付け等、それぞれの得意分野で一緒に行ってもらっている。職員も同じテーブルで一緒に食べながら雰囲気作りをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>近所のコンビニ等で、自分の好きな飲み物やお菓子を購入し、召し上がっている方もいる。お茶やコーヒー等ご本人の好みに合わせてお出ししている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない方へは、排泄表を使用し時間を見計らってトイレへお連れし、トイレでの排泄を支援している。また、ウォシュレットを使用し、気持ちよく排泄ができるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望を確認し、午後の入りたい時間帯に入浴していただいている。入りがらない方には声かけを工夫し、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人の状態に合わせて、不安を取り除き安心して休憩したり、よく眠れるように声かけを行い、支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの個性を活かし、お願いできそうな仕事を頼み、自分の役割として自信と張り合いを持っていただけるよう、感謝の言葉を伝えている。		習慣・希望・有する力をふまえて、何がその人の役割・楽しみになり得るのかを把握し、作り出す職員の気づきの力をつけていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の持っている力に応じてご自分で小遣いを持ってもらっている。買い物時は、職員が付き添い好みのものご自分で選び、支払いは能力に応じ見守り・支援し、満足感を得てもらおうようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の気分や状態・希望に応じて悪天候でない限り毎日散歩や買い物、ドライブに出、季節の移り変わりや地域の方とのふれあいを感じてもらえるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族・知人と共に外食・外出をされている。季節ごとのドライブや地域の特別な催し等、日常とは違った刺激が得られるよう支援している。		個人の思いを聴き、ご家族とも協同しながら、個人の思いをかなえるような外出支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族の希望により電話は自由にかけて取り次いだりしている。電話は子機を使用し自室でゆっくり話をしていたり、気兼ねなく会話できるように電話中はその場を離れているようにしている。また、携帯電話を所持されている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人がいつでも来訪しやすいように、職員は来訪しやすい雰囲気作りを行っている。また、ゆっくり過ごしていただくよう配慮している。。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中外出したような様子を察した時には、さりげなく声をかけて同行できるようにし、自由な暮らしを支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は常に見守りやすい場所において、様子や物音を敏感に察知できるよう、プライバシーを配慮しながら安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて必要な物品を持っていただいている。また、ご本人が所持していることを理解している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、物の配置や食事の摂取方法等工夫に取り組んでいる。また、事故やヒヤリハットのあったときには、速やかに報告書を作成し、今後の予防について検討し、防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	持病を把握し、初期対応としての薬の使い方等確認している。		応急手当や初期対応の方法等、知識・技術を身につけることができるよう研修参加や訓練を行い、全職員が実際の場面で活かせる技術を身につけていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難等については、立ち上げ時に職員間で経路等確認しているが、訓練は定期的に行っていない。		訓練を定期的に行い、災害時に非難できる方法を身につけていくと共に、地域の防災訓練等にも参加していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故やヒヤリハットについてご家族に報告、説明を行い、利用者の力の発揮を抑えることのない、自由な暮らしを支える為の支援方法を説明し、理解が得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと普段の状態を把握し、入浴時の体の様子等観察しながら、常に顔色や様子に注意し、体調の変化を見逃さないように注意している。変化時にはバイタルチェックを行い、報告・共有し、状況に応じ医療機関への受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出された薬については薬局の説明書に目を通し、理解していくと共に、服薬時には本人に手渡し、きちんと服用できているか確認をしている。また、日常の状態を把握し、状態変化を見逃さないようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、毎日の散歩や家事活動などで体を動かしてもらったり、入浴、ヨーグルトや牛乳・繊維質のある食材をとってもらおう等工夫し、自然排便を促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い、一人一人の能力に応じた見守り・介助を行っている。また、定期的に入れ歯の消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかに食事や水分摂取量を把握し、職員で情報を共有している。嗜好を把握し、摂取量が少ない方には、好みのもので摂取していただくよう配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日ごろより利用者・職員共に手洗い・うがいの励行を徹底し行っている。また、ペーパータオルの使用やヒスコールによる消毒等で予防を徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は毎日漂白・消毒し、定期的に冷蔵庫の掃除・点検を行い清潔を心がけている。また、一日おきに食材の買い物を行い、材料によっては調理前に買いに行く等、新鮮で安全な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置き、明るい雰囲気になるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には椅子を置き、外出前や外出後一休みしながらおしゃべりができるようにしたり、畳のスペースにソファを置き、思い思いにくつろげるような空間をつくっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には椅子を置き、外出前や外出後一休みしながらおしゃべりができるようにしたり、畳のスペースにソファを置き、思い思いにくつろげるような空間をつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものをそれぞれの生活スタイルに合わせて持ってこられ、居心地良く過ごせるようにしている。		個々の生活スタイルをつかみ、さらに居心地の良い居室にしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々の状況にあわせて温度調節を行い、日に何度か換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や干し物をする時などの高さを工夫し、常にチェックし、安全確保と自立への配慮をしている。		廊下に手すりの設置が現在ないので、今後利用者の状況に合わせて考えていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせ、何が原因かを分析し、ご本人の好きなものを目印にする等混乱のないように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	窓の外にプランターを置き、水遣りや成長を楽しんで活動できるようにしている。		建物の周辺スペースを活用し、もっと緑や菜園を楽しめる環境を作っていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

海の公園や称名寺等、散歩のコースに恵まれており、「今日はこっち」「明日はあっち」と四季折々の風景を体力維持を兼ねながら楽しめる環境にあり、『ゆっくり・ゆったり・私らしく』の基本理念をすべての行動にあてはめながら、利用者一人一人の思いや意思決定、出来ることを大切に、日々安心して生活を送っていただけるよう実践している。また、地域の行事もいろいろとあり、気軽に参加できるとともに、積極的に参加しながら地域との交流を深めている。